

騒音ばく露測定についての論点（案）

1. 現行ガイドラインに基づく測定の現状

- 屋内作業場に対する作業環境測定と結果の評価に関し、どのような課題があるか。
- 屋外作業場等において実施する測定に関し、どのような課題があるか。個人ばく露測定により解決することができるものがあるか。
- 作業環境測定と個人ばく露測定をどのように使い分けるべきか。

2. 個人ばく露測定の取扱い

- 個人ばく露測定は、どのような機器を用いて行うべきか。
- 個人ばく露測定結果は、どのような指標により評価すべきか。
- 個人ばく露測定結果に基づき、どのような対策を講ずべきか。
- 作業環境測定、個人ばく露測定のいずれも行わない場合、どのような対策を講ずべきか。

3. ばく露レベルの把握が困難な場合の対応

- 常に聴覚保護具の着用が必要となるのか。
- 有効な聴覚保護具の選定をどのように行うか。
- 聴覚保護具が有効に機能していること（ばく露低減化が図られていること）の確認をどうすべきか。

4. ばく露測定の実務

- 作業員への負担は許容される程度か。
- 事業場における測定において、実際に誰が管理して行うのか。
- 事業場にノウハウがない場合、外注することは可能か。
- どのような記録を作成すべきか。